

時、午後 9 時)。

(2) 予報対象及び対象期間：風向・風速の強弱及び天気を予報対象とし、向こう 8 時間を予報。今でいう短時間予報に相当している。

(3) 対象地域：予報区は全国区。ただし、予想パターンによって分けられる時は、①南北、②東西、③北部・中部・西部あるいは④海岸によって分けていた。

(4) 伝達手段：①測候所の掲示板に貼付、②印刷天気図に予報も刷り込んで配布、③鉄道停車場に貼付、④東京府下巡査派出所に掲示

(5) 成績評価：明治 17 年 6 月 1 日から 12 月に至る約半年間について、風は 87%、天気は 86% あたっているという当時の報告があります。天気予報は、予報が具体的に

ある程、長時間先を予報する程、狭い地域を予報する程、難しくなります。例えて言えば、明治になってようやく成長を始めた日本の気象事業が、ようやく小学校に入学し、小学校 1 年生の問題で 87 (86) 点を取ったのがちょうど今から 100 年前とすることができます。以後、気象事業は、年譜で示した様に発展を続けるわけですが、気象事業の社会に占めるウェイトも増加を続け、特に近年その傾向が顕著です。ニーズが多様化しますます難しくなる問題に対してどう答えてゆくかが 101 年目からの課題でしょう。

(気象庁予報課 饒村 曜)
資料提供 気象庁広報室)

NEWS

東京都八王子市防災課の八王子市の天気解説業務

(通称：八王子天気相談所)

東京都の西部にある八王子市は、都心へ通うサラリーマンの急増と、都心からの大学の疎開などにより人口の急増が続いている。このため、地盤のもろい丘陵や山間地まで宅地やキャンパスの造成が進み、集中豪雨などに対する防災対策が緊急の課題となっている。八王子市は、昭和 58 年度より 3 年計画で市民向け防災無線を市内 180 カ所に設置するなど防災対策に積極的に取り組んでおり、昭和 58 年 10 月からは、防災課で、八王子市の天気解説業務、通称八王子天気相談所をスタートさせている(市営では茨城県日立市に続いて全国 2 番目)。

八王子天気相談所は原嶋宏昌氏を中心に 3 名のスタッフで、気象庁が発表する東京都の天気予報や気象庁の FAX 放送による地上天気図・数値予報資料、富士山・名古屋・福井・新潟レーダー合成図(気象協会経由)などの資料に八王子天気相談所が八王子市役所庁舎内に設置された測器で測っている風向、風速、気圧、雨などの気象観測値、市内に展開中のテレメーター雨量計値(現在は 1 カ所)、後述する 30 年近い八王子の過去の観測値など独自の資料をつき合わせて、八王子市に合ったきめ細かい天気解説をしている。この解説には市民からの気象相談や問い合わせに答えるという直接的な住民サービスという面と、八王子市役所等の防災機関・行政機関に用途に応じたタイムリーな気象情報を提供することによってそ

の機関の活動を助けるという間接的な住民サービスという 2 つの面がある。

原嶋氏は、終戦直後に八王子市立第四中学校(昨年移転した新しい八王子市役所のすぐ近くにある)に理科の教師として着任以来 1 昨年春に教壇を降りるまで、特に気象観測の指導を通して精力的に気象教育を推進し、昭和 32 年から本格的な定時観測を開始している。八王子の定時観測は原嶋氏の精力的な努力と周囲の人々の協力以来 1 日の欠測もなく今日まで至っており、この 30 年近い質の高い観測資料が八王子天気相談所の強力なバックボーンとなっている(日本気象学会では、原嶋氏に「学校における気象観測資料の教材化と指導法の研究」で昭和 57 年度奨励金を授与している)。

なお、現在行われている自動電話サービスは、一般市民向けに 5 回線(0426-26-0177)と市役所の内線 2 回線があり、1 日 3 回(10時30分、13時30分、16時30分。ただし、土曜は 10 時 30 分のみで日曜・祭日は休み。警報発令時などは随時増加)内容を更新している。未だ半年しか経過しておらず市民に十分知れわたっているとはいえないものの、関東地方に大雪の降った今年の 2 月 17 日には、市民から 1,220 回もの問い合わせがあった。

(気象庁予報課 饒村 曜)